

平成 23 年 3 月 26 日

平成 23 年度 中斎塾 合同フォーラム

於：湯島聖堂

人生を切り開くのは、自分自身
東北・関東大震災を踏まえて

中斎塾フォーラム

塾長 深澤賢治

自然災害は近い将来、又、起きる

本日は大変な最中にお出かけ戴き、有難うございます。

大震災がございましたので、準備していた内容を変えて、大震災を中心にお話させて戴こうと存じます。

中斎塾フォーラムでは、最初に質問を致します。初めて参加される方も一緒にお考え戴いて、手を挙げて下さい。第一の質問を致します。

大変な震災でしたが、以前から食べ物や飲み物、家に帰れないような場合はどうか・・・等々の非常時の備えをしておられた方？

東京フォーラムの副代表幹事さんからお聞きしたのですが、会員さんとの会話で、「塾長から色々聞いていたから、非常食を用意してあって大丈夫だった」と言ったところ、「へえー、あなた非常食も用意していたの！ 凄いわね」と言われたそうです。私がフォーラムの中で「これから大きな地震・災害が来るから、非常時の準備をした方がいいですよ」と一所懸命言い続けていたにもかかわらず、その方は何を聞いていたのでしょうかと思いました。

本日の話の結論を最初に申し上げておきます。＜大きな地震・災害が近い将来、又、起きる＞と思っています。巨大地震が今度は自分の所を直撃すると思って準備をして戴いた方がよろしい。これが、私が本日申し上げたいことの結論です。これに伴う話をこれから致します。

素晴らしい国民・無能な政府

今回の震災ですが、最初は＜東北地方・太平洋沖大地震＞という言い方をしました。テレビのチャンネルを変えるたびに、言い方が違うのです。新聞も違います。＜東日本巨大地震＞＜東日本大震災＞＜東北・関東大震災＞・・・と、何故これほど言葉があやふやなのか。日本の政府がこういう定義だと明確に言えばすむことなのに、何故色々な呼び名を使

わせて不思議に思わないのでしょうか。政府は何を考えているのでしょうか、言葉の大切さを知らないからだと思っています。

次の質問です。中斎塾フォーラムでは、嘘をつかないことをモットーにしています。“今日は嘘をつかなかったかな”と思って寝るようにしましょう、ということをフォーラムで確認しています。これは、渋沢栄一さんが『論語講義』の中で、「私は夜寝る時に、今日はどなたにお会いしてどういう約束をしたかひと通り思い出して、納得してから寝るようにしている」と書いておられて、私もそれを活用させて戴いております。

昨日一日、嘘をつかなかった方？

ほとんどの方が手を挙げておられます。素晴らしいですね。「今度一緒に飯でも食おう」などと軽くリップサービスをして、本人は忘れてしまって、1年くらいしてから「いつご馳走してくれるのですか・・・」など言われる。こういうたわいもない嘘を結構ついているものです。

昨日一日、良い日だったと思う方？

今日寝る時に、今日は良い日だったなと思って眠れそうな方？

寝る時が肝心です。嘘をつかなくてよかったな・今日は良い日だったな・幸せだったなと思って眠ると、翌日は非常に良い気分で起きられます。

昨日のテレビで、食糧がまともに届かない避難所の中継をしていました。冷たいものばかりしか食べられなかったそうで、温かい炊き出しに長い行列が出来ていました。2週間ぶりに温かい食事を食べたお婆さん二人が、「幸せだね」と会話していました。こういう状況の中で、「幸せだね」という言葉が出る。幸せというのは、他と比較するのではなく自分の心の中で感じるものです。日本人は非常にあっても、こうした感受性を持つ素晴らしい国民だと思います。

今回の震災は外国から、「日本人は凄い。冷静沈着で素晴らしい民族だ」と絶賛されているという話が色々な国から聞こえてきます。木内顧問は震災の時にロンドンにおられたそうで、イギリスの新聞でもそういう内容の報道が多かったとお聞きしました。日本人も捨てたものではないなとつくづく思っています。

ただ同時に今回感じたことは、日本政府は酷い。よくぞこんなに酷い連中が政権与党でござい・総理大臣でござい・官房長官でございと言って、そのポストにのうのうとしているものだと感じます。言い方を変えると、あれだけ無能力な人が座っていても日本という国は回っているのだから、日本は凄い国だなと思いました。

私自身で考えると、今回非常に困ったのは、計画停電なるものに大分振り回されました。お陰で睡眠を大分とれるようになりましたが、日本人は電気がないと困りますね。電気が想像以上に日本の国内で使われていると感じました。大災害が起こると電気が使えなくなります。ではどうするか……。電気を使わない生活にすればよいのです。それから東電以外の電気を作ればよいのです。太陽光発電なり、風力発電・水力発電等ありますが、東電から電力を買わなければいい。それが出来なければ、電気を使わなければよいのです。

もう一つ困ったのは、ガソリンです。私は株式会社シムックスという警備会社の代表取締役会長をしております。私どもの会社は東北地方の営業所（仙台・福島・郡山・白河）に400名くらいの社員がおりますので、社員全員の安否確認をするのに相当時間がかかりました。津波に吞まれて流されて救助された者が2名おりましたし、家を流されて避難所にいる者もおりました。ただ、社員が一人も亡くなっていなかったことは有難いことでした。震災の翌日には、被災地に必要な物を人海戦術で掻き集めて、ガスコンロやカセットコンロ、水、食べ物、ガソリンといった命をつなぐものをトラックに満載して仙台へ届けました。13時間かかったと聞きました。その後、緊急支援車両の許可を戴いて東北道を走れるようになりましたので、6時間くらいで行けるようになりました。

何かあった時にすぐ判断し、すぐ行動に移して、人さまの役に立つ。こういう非常事態が発生した時には、それをやる所とやらない所が明確に分かれてきます。会議ばかりで何も動かない所もありますし、トップが判断し組織が機能的に動いて、即座に行動に移って避難所に物資を運んでいく所もある。これは民間レベルの方がはるかに素晴らしいと今回感じました。日本政府はなぜこんなに酷いのでしょうか。トップがきちんとしていれば、組織はきちんと動くはずです。

こんな例がありました。中斎塾フォーラムの大野参与の会社は抗ウィルスマスクを販売していて、鳥インフルエンザの危険性をずっと声高に言っておられます。今回の震災で厚生労働省から、避難所で感染症が広がるだろうからマスクを提供してくれるように依頼があったそうです。大野さんは色々考えて、100万枚の在庫全てを差し上げましょうと返事をした。金額にすると1億円くらいです。会社の存続にもかかわる大変な決断をしたにもかかわらず、厚生労働省は「有難うございます。では、送っておいて下さい」と言うのだそうです。トラックはないしガソリンもない状況ですから、送ることは無理だと返事をしたところ、取りに伺いますと言われ、1日待っても、2日待っても、3日待っても来なかった。感染症が広がってからでは間に合わないのではと私に連絡がありました。先ほど申しましたように緊急支援車両の登録をしていましたので、4トン車で50万枚くらいなら送れるということになりました。話を進めました。しかし、どこへマスクを運べばよ

いのか、又、輸送にかかる費用は負担してくれるのか（というのは、群馬県から東京の荷物を積んで岩手県まで往復すると走行距離は 5500 キロで、高速道路の料金もかかりますから、全部で 11 万円くらいのお金がかかります。1 億円のマスクを差し上げる案件で、11 万もの輸送費用を参与が払う必要はありません）・・・そういった連絡を厚労省にしても、全く返事がない。結果として、マスクも車も待機中です。話があってから 10 日以上経ちました。厚労省の意思決定者はいったい何をしているのでしょうか。一言連絡をくれればそれで動くのに、連絡をよこさない。役所というのは何故これほど機能不全を起こしているのかとつくづく感じました。

今回の震災でアメリカ政府が日本政府と協力関係を構築しようと思っているのに、何かを投げかけても返事が返ってこない。痺れをきらして、日本政府と協力関係を構築して震災の対処をするのは諦めたというニュースが流れました。日本政府が動けない話は、他にも嫌になるほどあります。日清食品がカップ麺 15 万食を農水省の指示通り自衛隊の入間基地に届けたところ、運搬するヘリコプターがないと受け入れを断られたとか、ワコールも下着 3 万枚を用意して経産省に連絡をしたけれども要請がこない状況だと新聞にありました。とにかく政府は言いつ放し・頼みっ放しで、返事が返ってこない。完全に機能不全を起こしているから、アメリカ政府から愛想を尽かされたのだなと感じました。

リーダーシップの欠如

5 年くらい前から私は、干支から考えて平成 23 年は日本の経済は転げ落ちる年回りだと言っておりました。今年の年賀状にも、「今年の干支は辛卯（しんぼう）です。辛は辛く・酷く・苦しい、卯は犠牲の羊を沢山殺すという意味がありますから、今年は辛く・酷く・苦しい年で沢山の人が死ぬ。日本の経済が大きく悪化する」と書きました。或る人から「そんなことを書くから、その通りになってしまったじゃないか」などと言われましたが、それによって多少皆さんが準備をして戴けるだろうし、私も準備をするというつもりで書いておいたのです。

関東大震災では 10 万人以上が亡くなりました。今回の震災では 3 万人以上の方が亡くなっているだろうと思います。更に、これから人災で亡くなる方が大勢出ます。今、死にかけている人が沢山います。体調を悪くしているお年寄りや病気の人が、避難所の冷たい床にダンボールを敷いて寝ています。食べ物も満足に食べられないし、薬もないような状況で、持つはずがない。報道されないところで、どんどん高齢者が死んでいると思います。色々なものが一段落して、暫く経ってからしらみつぶしにあたってみたら、一つの集落がまるごと飢え死にしていた・・・などという報道があるのではないかと危惧しています。

中斎塾フォーラムでは、知らず知らずの間に身につけて戴きたいものが 2 つあると申し上げております。一つは知識・見識・胆識です。知識とは、震災で色々な問題が起きていますが、それを知識として捉える。大震災の時にこういう物が必要だ、というのは知識です。見識は、ならば非常用に 1 週間分の備蓄をしておこう、1 ヶ月分の用意をしておこうと考えることです。胆識は、それを実行することです。最初に申し上げた副代表幹事は、非常食を用意してありました。良い話を聞いたなら、それだけで終わりにしないで実行することが肝心です。知識・見識・胆識が自然と身に付いてくるようにする。これは小さな問題でも大きな問題でも同じ思考回路をとります。

もう一つは、本質・大局・歴史という判断の三原則です。本質とは、この地震の意味するものは何かを考えて・考えて、詰めていく。大局とは様々な立場で色々なものを見る。今回の震災を菅首相の立場で見たらどうなのか。枝野官房長官の立場、或いは仙谷副長官の立場で見るとどうか。それぞれの立場でものを見ていくと、この人は良い人が悪い人かという判断がついてくる。政府側のそれぞれのポジションの人、東電（社長は顔を出しません）の立場だったらこれをどういうふうにみるのでしょうか。

想定外と言いますが、今回爆発した原発は 40 年前に購入した際、安い設計料・安い値段で作ったもので欠陥商品ではないかとアメリカでは大分叩かれて、それを承知で買い込んだというニューヨークタイムスの翻訳記事を貰いました。ですからいつかは起きる問題だった。想定外ではなかったわけです。特に今回、日本政府のやり方、東電のやり方で酷いと感じたのは、作業員が 3 人被曝をした事故です。どこまで本当の話が分かりませんが、東電の正規の職員はほとんど 50 キロ圏外に出ているという噂も出ています。今回被曝したのは関電工の社員が 2 名、その下請け会社の社員が 1 名です。腰に下げている計測器は振り切れてしまっていたのに、本人達は計測器が壊れているのだと思って作業をしていたと発表されていました。しかも事故の前日までは、専門の計測員と一緒に付いて作業をしていたそうですが、その日はついていかなかった。これは想定外とか予測不能という言葉で片付けられる話ではありません。

今回の政府が発表していることは舌害だと思います。枝野さんが玉の汗を流しながら必死になって会見をしています。何を言っているか分からない。菅さんは自分の言いたいことだけをさっと言って消えてしまう。これは舌害です。政府の言うことを聞いていれば安心だと信用できる政府ではありません。論語に「民は之に由らしむべし。之に知らしむべからず」という言葉があります。政治家が自分たちの言うことをきちんと説明しても、国民にはなかなか伝わらない。よく分からないけれども、あの政治家の言うことなら信用

できるから、後についていこうという気持ちを醸成させていかなければいけない、という意味です。今の政府の態度は、何かを隠して嘘をついているとしか見えない。はぐらかしてばかりです。これほど酷い、リーダーシップのない、官僚を動かさない政府は、今の状況が一段落ついたら、否つかなくても、政権は交代せざるを得ないだろうと思っています。

先ほど申しましたように日本経済は転げ落ちていく年回りで、民主党政権はそれに加速度をつける役、地獄の底へ引きずり込む役目だと思っています。日本という国は、もうこれ以上は落ちようのない行き着くところまで行って、初めて反転して、上昇を始めると思います。当分、日本は落ちていくままです。ですから皆さんは自助努力をしなければなりません。そうすれば浮上する力がどんどんついていくと思います。もっともっと自助努力する癖をつけていけば、対応が可能だろうと思っています。

今、日本という国を外国からみると、ものが多過ぎる・お給料が多過ぎる・食べ物が余り過ぎていると思います。なかなか自分ではそう感じない人が沢山います。ただ、はっきりしていることは、近い将来もう一度巨大地震が起きる。強毒性の鳥の新型インフルエンザが起きる。現在、千葉県で鳥から鳥の新型インフルエンザが起きていて、終息したと思ったら、又、起きています。人から人にうつる鳥の新型インフルエンザは、年内（おそらく暮れ）に起きると思っています。ですから巨大地震への対応と、新型インフルエンザへの対応の準備をしておかなければいけません。しっかり準備をしておけば、生き延びて未来へ向っていくことが出来ると思っています。

今の自分

こういう状況の中でやらなければならないことは何か、今の自分を考えてみましょう。

自分を突き動かすものは義憤（公の憤り）だと思っていますから、それが自分の中にあるかどうかです。この際に儲けようと思って動く人もいるかもしれませんが、<世の為・人の為に動こう> <今、動かないでどうするのだ>という義憤があれば、正しい歩き方になると考えています。

それには体力がなければいけません。やはり年齢がいけば否応なく体力は落ちるものですから、自分で自分の体力を時々チェックして、体力を保つようにされるとよいと思います。

更に、視野も必要です。しがらみからの脱却もしなければなりません。そして、どんどん棚卸しをすることです。身軽になって動けるようにする。老の方は、棚卸しをしていると思います。壮の人は、せつせと棚卸しをしなければならない。比較的若い人でも、品物

であったり、友達関係であったり、処分しなければならないものを結構持っているものです。私も身の周りにあるものをどんどん処分しています。なかなか捨てられないものもありますが、人さまの役に立てるかどうかというキーワードがあると、思い切って処分できます。

お時間も少なくなりました。本日のまとめを申します。

自分自身の人生で、お手本にしたい人物がいると、その人の人生は豊かです。先ほど渡邊先生のお話の中でも佐藤一斎が出ていました。佐藤一斎は『言志録』の中で、「太上は天を師とし、其の次は人を師とし、其の次は経を師とす」と記しています。人生をまっとうに生きるためには、天地自然をお師匠さんに出来れば最上であり、その次は人格を持った素晴らしい人物、三番目は良い書物を見つけて師とすると言っています。お手本にしたい人物、お師匠さんを見つけられたら、その人の人生は更に良くなると思います。

そういう人物が見つかるかどうかは、知足（足るを知る）がキーワードです。ほどほどにしておこうといつも考えて実行する。知足・利他（人さまの為に）おかげさま、もったいない・・・日本は素晴らしいものの考え方を持っている民族です。知足と利他という考え方をもちて毎日を過ごしていけば、すごく豊かな人生を送ることが出来ます。そういう考え方で、非常事態への対処も事前しておく必要があると思います。

最後にもう一度申します。知識として考えると、近い将来、自分自身の所を直撃する大きな地震があると思うこと。そして、強毒性の新型インフルエンザも来る。腹をくくれば、準備を始めますから。近々そうものがあるのだと肚をくくってもらいたい。そのための準備をしなければいけないと思って戴きたいと申し上げて、私の講話を終了させて戴きます。

渡邊先生、顧問の先生方、合同フォーラムを設営して下さい下さった幹事さんに感謝を申します。皆様こういう大変な時にお出でを下さいます大変感謝致しております。どうも有難うございます。